

新ましこ未来計画外部検証委員会（人財育成分野）議事録

日時	平成 30 年 5 月 30 日(水) 19:00～20:30	
場所	役場 職員休憩室	
出席者	委員	久野委員、鮎沢委員、加藤委員、森田委員
	職員	岡教育長、木村健康福祉課長、石塚学校教育課長、櫻井生涯学習課長
	事務局	吉永係長、深谷
配布資料	次第、推進状況総括シート、推進シート、子ども子育て支援拠点施設平面図、育脳プログラム	

発言者	発言要旨
教育長	1. 開会 2. 出席者紹介 3. 配布資料確認 4. 案件 (1) 概要説明 資料に基づき説明
委員	(2) 施策ことの検証 ○P.46 施策 1 勁い心を持つ人財の育成 学校司書増員 2 名、昨年は 1 名。倍になったという事で効果は上がりつつあるかと思うが、町には図書館も必要があると思っている。近隣の市町にも立派な図書館がある。町に独立した図書館があり、そこから学校への働きかけがあるとよい。
生涯学習課長	図書館は町長選挙の公約にもあったが、図書館を建設するための準備として検討委員会を設け、各方面の方に意見を聞くことから始めていくようにと、町長から指示があった。
委員	学校司書の 2 名は、具体的にはどこに配置されているのか。
学校教育課長	一人が田野小、西小、七井中を担当し、もう一人が益子小、七井小、田野中、益子中を担当している。業務内容は子どもたちが必要とする資料や書籍、夏休みに読む本の選定に関しての助言をしており、学校でも喜んでいる。昨年よりも増員したことで、さらに多くの対応が出来るようになった状況であり、本の整理も進めている。
委員	芳賀町では図書の管理はパソコンでやっているようだが、システムの整備には莫大な費用がかかるものなのか。
学校教育課長	物品の費用はパソコンの購入程度であるが、人的な費用が必要である。現状では、

	益子小だけが導入できている。
委員	図書ボランティアが学校に出入りしているが、図書の廃棄も司書と連携して作業しているのか。
学校教育課長	ボランティアの図書の廃棄作業の日数はそこまで多くなく、基本的に廃棄作業は司書教諭と司書で行っている。廃棄作業は学校で行っているので、教育委員会ですべてを把握しているわけではないが、ボランティアが廃棄に関わる割合はあまり多くないと思われる。より良い方法を司書と検討していきたい。
委員	本棚のスペースには限りがあり廃棄をしないと新刊が入れられないので、進める必要があると感じている。
教育長	毎年新しい本を入れるので、廃棄の仕方を検討することは、最大の課題であると認識している。
委員	Hyper・QU の調査結果が、学級経営に活用されているかどうかの追跡調査は行っているのか。
教育長	毎年夏に、調査結果の活用の仕方についての研修会を町教委で実施しているが、追跡調査はやっているわけではない。いじめなどの心理状態が明らかになる調査であり、不登校などを未然に防ぐことができるものと考えており、うまく活用していきたい。
委員	K P I に直結する事業と考えるので、ぜひとも活用していただきたい。
委員	不登校について、来られるようになった子や引き続き来られない子の話を聞いている。中学校では教室や保健室ではなく別室が設けられ、そちらに通学できるようになった子がいると聞いており、良かったと思っている。
教育長	心の相談室として、職員室の隣に設置している。また、好事例として担当である非常勤の先生が朝早く来て信号に立って中学生へ笑顔で挨拶をし、また、校舎内ではすべての教室を回り生徒に声をかけて回っている。素晴らしい先生に来ていただけた。併せてつばさ教室との連携も引き続きやっていきたい。
委員	部活動の外部指導員を増員させているが、国からは部活動の日数や時間の上限を示した指針が示され、実際に活動時間が縮小している。これにより、家庭での時間を充実させるというメリットもあるが、部活をしたくてもできないという子もいる。そのため、希望者は先生に延長練習の許可をいただいて部活動をしているという状況である。時間延長によって先生の負担を増やすことになってしまっているが、こ

	の指針の目的が先生の負担を減らす事にもあったということもわかり、外部指導員の協力を得ることが出来れば、先生の負担を減らせるのではと考えている。
教育長	今年3月にスポーツ庁がガイドラインを策定した。平日1日、土日1日の週2日の休みを設け、活動時間にも上限を設定するという内容である。また、県では、今年度、公立学校業務改善推進委員会を立ち上げ、学校教職員の働き方改革について検討し、方針としてまとめていく予定である。学校においては以前に中体連で出した方針にのっとり行っている。部活動指導員が大会を単独で引率することは、大会運営の面から中体連では認めていない。現在は過渡期であるが、他の都道府県と比べると栃木県は遅れている状況である。
委員	臨海自然教室実施については田野小、益子小、七井小が同日に実施され、その後西小で実施されている。以前はたまたま益子小と西小が一緒になるタイミングがあったが、その2校は益子中学校で一緒になるので事前に交流がとれる良いタイミングと感じていたので継続はできないか。
教育長	全くその通りであるが、行事等の都合で別れてしまったと思われる。県の芳賀教育事務所が調整をしている。
委員	これに関しては各学校の意向は反映されず、教育事務所から指定されるものである。
委員	海なし県である栃木県の子どもたちには、夏の楽しい海ではなく冬の荒々しい海を見せたいとの思いもあったと聞いている。
教育長	少子化が進行しているので、県の方針で県外者への利用拡大も図っているとのことである。
委員	<u>○P.48 施策2 学びを通して社会に貢献できる人財の育成</u> 英検3級の取得率は中学生全体の割合か。
教育長	中学3年生の割合である。
健康福祉課長	お配りした「育脳プログラム」について説明すると、プログラムとは言っても具体的にこの時期に何をするというものではなく、年齢ごとの脳の状態を提示し、声掛けや活動等の参考になるようにしている。これに関連して、保健センターでも、特に乳幼児に向けた事業を行う予定である。また、子ども子育て支援拠点施設では、育脳プログラムを基本とした遊びの提供を検討している。お子さんと保護者に、育脳について楽しみながら学んでいただく施設となる予定である。屋外にはゴムチップを敷き、外遊びもできるよう整備を行うが、遊具は設置せずに屋内での遊びが主

	となる予定をしている。また、幼児用図書スペースも設け、図書も用意する予定である。学校司書の協力を得て設置する図書のリストを作成し、読み聞かせボランティアの意見も聞いて選定を行う。
委員	自習スペースは多世代交流広場を予定しているのか。
健康福祉課長	施設の休館は火曜、祝日、年末年始とし、17時までが子育て支援として活用し、17～20時までは自習室として開放する。自習スペースは多世代交流スペースを想定しているが、足りない場合は奥の備品倉庫からテーブルを出し、空いているスペースを利用することも可能である。日中は保育士が常駐する。17時までは保育士等有資格者が常駐し、17時以降はシルバー人材センターへ管理を委託する。
委員	場所はどちらか。
健康福祉課長	大字益子地内の旧ホームセンターを改装した。
委員	オープン時期はいつごろか。
健康福祉課長	7月上旬のオープンを目途としている。また、スタッフは6月1日付で採用を予定している。
委員	利用の仕組みはどのように予定しているのか。会員登録等が必要か。
健康福祉課長	これから最終調整を行うが、基本は利用者は受付簿に記入し、親子同伴を想定している。
委員	町民大学5期生のグループが、「子ども子育て支援拠点施設 SIEN 隊」を組織し、オープンを待ち望んでいる。ボランティアはどのような時に必要か。
健康福祉課長	多世代交流施設のため、自由に触れ合っていただくのはもちろんだが、お母さんも子どもとの交流を通して学んでいただくことも目的としている。ただ、お母さん対象の講座の時は託児の必要もあるので、そういった場面をお願いすることがあると考えている。また、施設にはWi-Fiの設置は予定をしておらず、お子さんと向き合う時間を作れるようにと考えている。
委員	最近では、子どもにスマホを預けてお母さんたちはおしゃべりをしているという「スマホ育児」という言葉もあるので、Wi-Fiはない方がよい。
委員	<u>OP.50 施策3 たくましく生きるための人財の育成</u> 体力向上プログラムは、学校でどのように取り入れられているのか。

教育長	昨年度から小・中学校で年間を通してメニューに従って実施している。毎年6月には授業研究会を学校を変えて開催し、先生方に学習してもらいたいと考えている。指導員研修として県の予算で講師を招聘して苦手とする投力に絞った研修会を予定している。ジャベリックボール投げが先日の町陸上記録会でも競技化されており、大会新記録が出た。現代の子どもは投げるという習慣が少ないので、学校でも工夫している。
委員	益子中学校の新体力テスト優秀校表彰とはどういったものか。
教育長	益子中学校は新体力テストにおいて優秀な結果であったため、昨年度県内10校のうちの1校として表彰を受けた。大変名誉ある表彰である。
委員	マシコット体操のメロディは完成しており、今後動作をつくとあるが、どのような人が携わるのか。
健康福祉課長	曲は益子在住の音楽家をお願いしてメロディが決まっている。動きは県内で実績のある法人で有資格者が在籍し、ビデオまで作成可能なところに依頼し、今年度中には完成予定である。他の自治体での実績によると、過激なものではなく、高齢の方でも無理がなくてできるような内容であった。
委員	高齢者でも出来るようなものでないとなかなか難しいが、あまり運動にならないものでも意味がなく、バランスが難しい。部活動の外部指導者が不在の6部中2部については、要望しているとあり、適切な指導者がいないことが悩みだが、過激な指導者も悩みである。採用する場合、勝利至上主義者はくれぐれも気を付けてほしい。パワハラなどもあり得るので人選が難しい。
委員	少子化で部活動の維持が難しいという問題もあるようだが。
学校教育課長	生徒数の減少も問題であるが、指導者がいなくて維持できないという問題もある。外部からの顧問という制度を昨年度作ったので、今後は顧問として活動していただける方を見つけられれば継続していける。なるべく多くの部活を維持していきたいと考えている。毎日同じ時間に来られる方は、現役の方だと難しいが、探していけるよう頑張りたい。
委員	やりたい部活がないため違う学校に通うという生徒もいると聞いている。
委員	良かったこととしては、少年スポーツ教室で野球部や剣道部の中学生が一流アスリートから指導を受けられたこと、またスポーツ栄養学の方の講演会が良かったという保護者の声があり、今後も継続していただきたい。

教育長	栄養学の講演会は、指導者や保護者、子どもたちを対象にスポーツ栄養学の鈴木いづみ先生をお招きしたものである。子どもたちがメモを取って真剣に聞いている姿も見られ、非常に充実した内容であった。 ○P.52 施策4 人財が育つ環境づくり
委員	町民大学は昨年が6月1日から募集していたが、今年も同じか。
生涯学習課長	募集期間は6月1日～7月末までである。周知を図るために現在、職員が公民館の来館者などに声をかけている状況である。直接声をかけると反応があるので、今年は待っているだけでなく積極的に声をかけていきたい。
委員	町民学士認定者数155人は以前に開講したものも含めてか。
生涯学習課長	累計者数は、17年前まで開催していた町民大学1～4期生119人に加え、特定の通信講座の受講者を町民学士として認定している11人も含めての人数である。遊びの達人については、今月3人が登録され登録者数は現在11人となり、今年の目標は達成している状況である。分野は釣りや登山、巣箱づくり、昆虫採集などであり、その方々をいかした事業を計画している。
委員	平成29年度はましこ検定合格者20人とあるが、累計は何人か。また、町外者の受検も可能か。
生涯学習課長	初年度の平成28年度は39人で併せて59人である。2年目は初年度より減ってしまった。現在は初級として中学生レベルの内容であり、今後は中級や上級を検討してはどうかという話も検定実行委員会の委員さんから出ている。町外者の受検も可能である。
教育長	平成29年度は小学生と大学生の受検者があった。中学生と高校生はいなかったの で参加者を集めたい。
委員	今年度の日程はいつか。
生涯学習課長	2月の末を予定しているが、日にちは確定していない。
委員	世間遺産についてNHKで放送されたようだが。
生涯学習課長	前回は短い時間で放送されたが、もう一度長い時間の放送をしていただけることになり、ちょうど今朝(5月30日)放送され反響も寄せられている。大羽地区を中心としたインタビュー映像などであった。

	(3) その他 特になし 5. 閉会
--	--------------------------------------